

中央区警固の家



所在地：中央区警固
所有者：佐藤 祐二
概要
用途：住宅
構造：木造瓦葺
階数：2階建
建築面積：173.6㎡
延床面積：310.96㎡
敷地面積：348.0㎡
完成年月：昭和9年



国体通りを天神からけやき通りへ向かっていると、雑多な業務ビルやテナントビル、幅員のせまい4車線道路にひしめく車の列越しに、真っ白な壁の土蔵づくり町家が意外な感じで目に飛び込んでくる。当初を伝える伝統的な格子や建具、御影切石の基礎で構成される端正な表構えには重厚さと風格が感じられる。しかしよく見かけると、コンクリートの看板を小脇に抱えた姿は、むしろ現代の街なみの中においてむしろふる都会的である。この警固の家では戦前より酒造業が営まれ、当時は酒蔵や蔵を携えてほぼ倍の敷地があったが、国体道路の拡張で昭和50年頃に現在の敷地となる。かろうじて取り壊しを免れた母屋には丹念な修理と手入れが施し続けられ、この通りの歴史を物語る大切な証人となっている。

(審査委員 西山 徳昭)



6

西の堤池



所在地：城南区片江5丁目
所有者：福岡市
設計者：株式会社ZEN環境設計
施工者：株式会社山下組
概要
面積：29,614㎡
外周園路：延長700m
修景施設：州浜・芝生スタンド・水辺のテラス・階段護岸
植栽：高中木 クロガネモチ・シダレヤナギ・キンモクセイ等180本
低木 キリシマツツジ・クチナシ等 4,535本
水生植物 スイレン
完成年月：平成7年3月



「西の堤池」は、数ある農業用ため池を呑み込んで拡大する城南区の市街地の中で、かつての原風景の枠組みの中に踏みとどまる要の存在である。南に油山を望む立地や、周囲の街路との穏やかな高低差という、このため池本来の特性を活かしたデザインによって、ともすれば箱庭的になりがちな水辺の空間を、のびのびとした、飾らないが心休まる水面として見せることに成功した。雑多な周囲の建築群や生活のたたずまいの全てを映し込んでなお、人間に近いところに存在する自然としての包容力を十分に感じさせるランドスケープデザインである。

環境共生という科学的な社会の流れを横目で眺みつつも、人の心休まる拠り所という、風景の作法を忘れていない。華やかな都心のにぎわいが注目されがちな福岡にあって、周縁や境のたたずまいを都市生活の豊かさにとつ結びつけるか。その景観デザインによる解答の一つを、私たちはここに見ることが出来る。

(審査委員 仲間 浩二)

